

令和7年度 学校法人福島聖心学園各幼稚園の事業報告書

【法人事務所】

当幼稚園における令和7年度事業内容につきまして、下記のとおり報告いたします。

1. 項目別

項目	計画(=Plan)	実行(=Do)／ 評価(=Check)	改善(=Action)
目的 学園教育理念 教育方針	学園の教育は、聖書が教えるキリスト教の世界観、人生観に基づく人間教育とする。 創造主である神から命を与えられた者として互いの命を尊重し、互いに愛し合ってより良い社会の建設、完成のために生きる人間を育てることを目指す。 そのために、日々、神と人間、そして世界について学び、神の望みに応えられる人間を育てる心の教育を行う。個々の幼稚園が活動している地域の方々に支えられ、その期待に応えようと教職員が一体になって教育に励む。 私たちはめまぐるしく変化する世界の動きに惑わされず、神の教えと神の助けを受けて豊かな人間を育てるために、研鑽、努力を積み、社会に開かれた学園としてあり続けることを目指す。	●当学園の教育方針である「感動する心、感謝する心、祈る心、共に生きる力」に基づき、人間教育の精神を受け継ぎ、当学園教育の使命や目的及び神の望みに応えられる人間教育について遂行することができた。 特に学園主催の「教職員研修会」を通し、目的及び使命の共有を図ることができた。 ●組織連携体制の強化については、学園主催の「教職員研修会」を通し、親睦を図りつつ、時代の流れによる検討課題等について、講演を通し、学園全体として学び得ることができた。 グループディスカッションの充実を図ったことにより、親睦を図りつつ和やかな雰囲気での課題解決に向け討議をすることができた。 ●教職員の働き方改革については、ライフワークバランスの推進のため、夏期・冬期大型連休化を図り、仕事と私生活の調和がとれるよう勤務形態の改変を図った。	●次年度についても、今年度同様、教育理念及び教育方針に基づき学園運営を進めていく。

年間行事について =年間業務内容	●理事会・評議員会の運営管理 等	①実施状況 【1】法人として、園児の安心安全な教育環境整備に重点を置いたこと、併せて職員の勤務対応については、働き方改革に即した勤務体制の見直し(変形労働制の確認等)を図った。 【2】理事会 :全5回 5月28日 / 12月16日 1月15日 / 2月16日 3月11日 評議員会:全4回 5月28日 / 1月15日 2月16日 / 3月11日 令和7年4月から施行の私立学校法改正に伴い、理事会・評議員会の組織・運営方法が大幅変更となった。 会議資料の準備、開催通知文準備発送、会議運営(詳細説明等含む)、議事録作成等の業務を行い、当該会議が滞りなく執行できるよう努めた。 ②評価 【1】社会の動きに対応しながら一つひとつ丁寧に対応したことにより、滞りなく執行することができた。 【2】上記の業務を遂行したことにより、滞りなく閉会することができた。 【3】理事会・評議員会に必ず2名の監事の出席を得て、意見を聴取した。	【1】安心安全な教育環境の充実に最優先事項に掲げ、次年度以降も、保護者・教職員等に対し十分な説明責任を果たしながら、学園運営を遂行していく。 【2】会議開催に伴う運営管理業務については、軸はぶれることなく、幹は時代の流れに即し柔軟な体制で会運営を遂行していく。 【3】各理事会・評議員会において、少子化に対する対応・園児募集の状況について協議し、経営の基盤は園児確保にあることを念頭に置き、会議を進めていく。 【4】令和5年に私立学校法が改正され、我が学園も令和7年4月1日より新寄附行為により運営が行われた。理事会は「意思決定機関」、評議員会は「諮問機関」としての立場を理解し対立ではなく協働の精神を発揮できる法人組織の確立を目指していく。 【5】令和8年2月に、役員・評議員の改選が行われ、令和8年4月1日より理事長専任者が選出され、法人運営の強化と迅速な意思決定を図る。
	●寄附行為に係る各種計算書類の準備(予算書含)	①実施内容 決算書に係る各種計算書類(決算処理含む)の準備については、(株)若葉会計センターに業務委託を行った。	次年度も今年度同様継続・執行していきたい。

		予算書作成については、学園内にて前年度決算額、月次決算額、人件費、新規事業額、行政機関からの給付額及び補助金額を勘案し作成した。 ②評価 滞りなく、寄附行為に係る各種計算書類の準備を進めることができた。	
	●法人・幼稚園に係る会計業務	①各幼稚園の現金出納帳の確認 ②法人・幼稚園(現金出納除く)の会計処理 (株)若葉会計センター指導の下、適正に処理を行うことができた。 ③施設型給付幼稚園の運営体制として、厳格な会計処理が求められた。 ④いわき税務署 法人の源泉徴収税の税務調査 ・日時:令和7年9月30日～令和7年10月2日 ・調査対象:令和3年1月～令和7年7月分(調査直近) ・給与に関する源泉については正しく源泉がなされているとのことだった。 ・上記期間の外部講師、学校医等への報酬に係る所得税の納付漏れの指摘を受け、いわき税務署からの納付書の通り納付を行なった。 ・外部講師、学校医への報酬に係る源泉事務について各園の事務担当者対象の事務研修会を開き共通の理解を図った。	次年度も細心の注意を払い滞りなく業務を進める。
	●給与支給業務(年末調整・給与支払報告書等含む)	①毎月の給与支給(25日)※休業の場合は前営業日 ②年末調整・給与支払報告書(1月31日提出期限) 滞りなく、対応することができた。	次年度も、細心の注意を払い滞りなく業務を進める。

	●教職員福利厚生業務	①私学共済 ②退職金財団 ③雇用保険 ④市区町村 手続きが遅れることもなく、対応することができた。	次年度も、細心の注意を払い滞りなく業務を進める。
	●行政機関(県市町村)への各種補助金・給付金 申請業務	①実施内容 福島県・いわき市・二本松市等において、下記の補助金・給付金申請を各幼稚園と連携をとり、補助金・給付金獲得に努め、学園の安定経営を図った。 【福島県】 ・私立学校運営費補助金(一般補助) - 子育て支援推進補助事業 - 心身障がい児教育費補助事業 - 次世代を担う人材育成事業 - 安全確保に関する事業 ・施設設備費補助金 (特別防犯対策) ・教育支援体制整備事業費補助事業 (遊具等) 【いわき市】 ・教育・保育に係る施設型給付費 ・市私立幼稚園運営費補助金 【二本松市】 ・教育・保育に係る施設型給付費 ・私立幼稚園教育・保育補助事業 ・物価高騰対策支援事業補助金 【本宮市】 ・教育・保育に係る施設型給付費 【福島市】 ・教育・保育に係る施設型給付費 ②評価 各幼稚園と連携を図り、滞りなく各種補助金・給付	次年度も今年度同様、各幼稚園と連携を図りながら、滞りなく業務を図っていく。

		費申請、中間報告、実績報告を行い、学園の補助金収入の基盤(＝安定化)を図ることができた。	
	●行政機関(県市町村)への各種申請・届出・調査回答業務	①実施内容 福島県・いわき市・二本松市に対し、変更申請・届出・各種調査回答業務を行った。 【福島県(主だった届出)】 ・寄附行為変更認可申請書 ・登記済届 【福島県・いわき市・二本松市(主だった調査)】 ・私立学校運営調査 等々 ②評価 各幼稚園と連携を図り、滞りなく各種申請・届出・調査回答を行い、理事会における決定事項(＝学園の方針)に即し業務を行った。	次年度も今年度同様、各幼稚園と連携を図り、滞りなく各種申請・届出・調査回答業務を図っていく。
	●行政機関(県市町村)との連絡調整	①実施内容 福島県・いわき市・二本松市等からの各種問い合わせ、学園(幼稚園)運営に係る問い合わせ業務を行った。 ②評価 双方の疑問点等の明確化を図り、学園(幼稚園)運営の基盤固めに努めることができた。	次年度も今年度同様、各幼稚園と連携を図りながら、滞りなく業務を図っていく。
新規事業について	①「会計システム」カスタマイズ	現在使用している「会計システム」の利便性向上のため、カスタマイズを図った。 このことにより、会計業務の簡略化と明確化が図れ、作業時間を軽減することができた。	次年度以降も滞りなく業務を進めていきたい。
	②内装・床・外壁・屋根 改修工事	経年劣化による、内装のカビ、雨漏り、畳の破損等あり、安全面・衛生面を考慮し改修工事を行った。	永く使用できるよう大切に使用していきたい。

	③会議・応接用テーブル・椅子の入れ替え	経年劣化により、テーブル表面の剥がれ、椅子表面の破け等があるため、新規購入を図った。	永く使用できるよう大切に使用していきたい。
	④学園教職員研修会の開催	全教職員（専任＋非常勤）による合同研修会を開催し、学園の教育理念・方針・目標・各園の事業内容等について共通理解を図ることができた。	次年度以降も継続していきたい。
	⑤「人事院勧告」給付費に係るコンサル委託	施設型給付園における運営方法（給付費関係）が、昨今、令和7年度的大幅改定を含め複雑化しているため、幼保業界専門の経営コンサルに委託契約し、相談・アドバイスが得られる環境設定を行った。 このことにより、疑問視していたことが解決され、滞りなく行政に申請請求することができた。	今回整理できたことを踏まえ、次年度に繋げていきたい。
教職員の 質向上に ついて (研修等への 参加含)	②学園主催「教職員研修会」の参加	学園主催「教職員研修会」の準備及び参加することにより、当法人の現況と今後の展望について、再確認することができた。	次年度以降も、幼児教育の変わらず守り育むべきところ、時代の流れに即し検討を要するべきところを見極めるため、日々気づきとアンテナを高く持つことの重要性を頭に置き、質の向上に努めていきたい。
その他			

2. 総括

1. 働き方改革における新たな取り組みとして、職員の一人ひとりに寄り添った職場環境の整備を図った。具体的には、ライフワークバランスの推進のため、夏期・冬期大型連休を設定し仕事と私生活の調和が図れるよう勤務形態の改変を図った。また、給与の改善等も行った。
2. 園児並びに職員の大切な命を守るため、安心安全な幼稚園の環境整備を、補助金を利活用しつつ施行することができた。具体的には、各園において施設設備の充実(【小名浜】東側フェンス高のかさ上げ・アルミステージ購入、【勿来】遊具の塗装等メンテナンス・ホール天井照明器具の取り替え等、【二本松】園児用テーブルの入れ替え、砂場の砂入れ替え等)を行った。そのため、大きな事故も無く一年間経過することができた。次年度以降も継続して行きたい。
3. 経営に関しては、「施設型給付費」の安定収入を図るため、教職員(非常勤含む)の勤務配置の可視化及び効率的な教職員配置に努め、安定した給付費獲得に繋げることができた。
しかしながら、少子化の影響による園児数の減少に伴い年々収益が減少する一方、人件費比率が上昇していることから、各幼稚園における職員配置を適正化すべく、各職員の理解と協力を求めることが次年度以降必要となっていく。
また、次年度(令和8年度)より利用定員を、二本松カトリック幼稚園(75名→60名)、勿来カトリック幼稚園(60名→48名)に変更し、より現実に応じた定員管理を行い、経営の安定に努めることとした。
4. 全家庭を対象に「保護者アンケート(=3園共通)」を10月に実施し、園に対する保護者の考え・ニーズを理解・整理することができた。3園とも教育提供について、ほぼ100%の満足度を得ることができ、学園として今後も自信と誇りを持ち、教育提供を継続していくことが確認された。その他領域(子育て支援等)については検討すべき点を整理し、できるものから年度内に改善を図った。
なお、今後についても、より一層認められ選ばれる園を目指し邁進していきたいと考える。
5. 保護者に対し、①教育提供に関すること、②命を守る教育環境に関すること、③徴収額の考え方等について、明確な説明責任を果たすよう努めたことにより、信頼関係が向上し、園児・保護者・教職員がひとつになり、園児の成長を、喜び感謝しあえる関係性の構築を図ることができた。
6. 次年度以降も安定した学園運営の継続に向け、法人本部と各幼稚園が緊密に連携し、組織力の強化を図っていきたい。
また、園児・保護者の安全と安心を最優先に「信頼される園づくり」を徹底するとともに、地域社会に根ざした魅力ある教育・保育を展開し、園児募集を最重要課題の一つと位置づけ、全力を注いで業務を遂行していきたい。
7. 昨年10月に学園発足以来はじめて、いわき税務署の監査が行われ、業務を委託している個人事業主の申告漏れが指摘されたことに伴い、今後は委託業者に対し、しっかりと確定申告を行うよう指導して行きたい。